

かのや市商工会青年部と市長との「“本気”で語ろう会」 会議録

団体名	かのや市商工会青年部
日 時	平成 29 年 10 月 17 日（火）17:00～19:00
場 所	庁議室
参加者	串良支部 3 人、輝北支部 2 人、吾平支部 3 人、職員（経営指導員） 3 人 市長、商工観光振興監、商工振興課長、商工振興課長補佐外
意見交換	
三地区における商工業の現状と課題について	
・ 交流人口の増加促進 ・ 空き店舗等を活用した商店街機能の再生 ・ 異業種交流（農業、福祉、介護サービス業など）による共同事業の構築	
○市長あいさつ ・ 今の時代は、皆さん個々の事業所がアイディアの差別化を図らないといけません。自分の仕事のやり方やスタイルが確立しないとうまくいかないのではないかと考えています。 ・ 昔は、対面販売をして、安否確認あるいは話しをする中で地域の絆も深まって、皆で支えながら暮らしていました。昔のことを言ってもはじまらないかもしれませんが、今日はそう言った意味で、皆さんの商売の苦しみや悩みなど、いろいろあると思いますので、率直な意見を伺いたいと思います。 ・ 「市長、農家の人は補助事業があるからいいですね。我々商売人には何もなし」と言われることがあります。 ・ 皆さんは個々の事業主ですから、支援する際、地域全体でやるイベントであるとか、いろんな形で市が応援させていただいていますが、個々の事業主一人ひとりに市が個別に支援するというのは、なかなか難しいところです。 ・ 指導員の方も参加されていますが、多分、後継者に対するいろんな仕組みというのが商工会にはあるとは思いますが、いろんな話を聞かせていただきたい。 ・ 商店街としてそれぞれの地区の悩み、あるいは今後の方向性についての夢などを語っていただいて、有意義な時間にさせていただければありがたいと思っています。 ○青年部の自己紹介 ※串良支部・輝北支部・吾平支部の順番で 1 人ずつ（8 人） ○意見交換 まず、はじめに各地区の現状と課題を簡単に経営指導員の方々からご報告をいただきたいと思います。では、宜しくお願い致します。 経営指導員 ・ 串良支部の現状について報告します。本年 4 月 1 日における串良支部会員の事業所数が 242 事業所です。ちなみに平成 18 年の新鹿屋市が誕生した時の会員事業	

所数が 300 弱で、2 割近く減少しています。

- ・ 業種別に説明すると、10 年前と比べ建設業社が非常に少なくなっており、次いで製造業も少なくなってきました。一方、サービス業、農業に関連する業種、農業に付随するサービス業をされる方々が増えています。
- ・ 現在の状況につきましては、大きく潮目が変わった、昨年 9 月の台風 16 号被害でやはり串良は農業地帯であるため、農業者の収入が非常に一時的ではありますが、縮減をしました。その農業の方々が、串良町内の飲食店とか、あるいは物品購入等でお金を落していただいていた仕組が崩れたと考えています。
- ・ 串良の岡崎地区に飲食店があるが、そこが直撃を受けた。直接的な水害被害等もあり営業ができなくなったお店があり、約 4 件ほど店を閉めている。
- ・ 飲食店については、今年の春以降は持ち直しておりますが、台風被害前の状況まで回復したということではありません。その他、人手不足は非常に慢性的になっており、過重労働に近いぐらいの状況でやっているところもあります。
- ・ 建設業につきましては、民需が非常に旺盛でした。畜産業の関連施設、畜舎等の建設などが主な要因です。また、コンビニの出店を請け負う事業所が多く、規模の大小にかかわらず、民需を中心にされていますが人手不足の状況で、いわゆる受注できないという状況です。
- ・ 串良の中心商店街である岡崎地区を見ていただくと、総合スーパーや総合衣料品店、総合食品店とか、総合がつくようなお店が残ってなく、いわゆる専門のサービス業、写真屋さん、お蕎麦屋さん等と呼ばれるものが数件営業している状況です。総合スーパーと呼ばれるところも、全く無いわけではないが、非常に規模が小さくなっています。実は、総合スーパーのうちの 1 店、あるいは、食肉の専門店がありましたが、食肉の専門店につきましては、今年の夏の終わりに閉店し総合スーパーも規模を半減しました。公共サービスの受注をしていたところが、市も合併 10 年でいろいろ合理化する中で集約をされていた。地元、各地域で展開されていたサービスを集約する中で、納入業者であった事業所も合理化の対象になったということで廃業になったところもありました。やはり今、地元に残っている事業所は少なく、官需すらも生命線です。というぐらい、元々のお客さんのボリュームが薄くなっている気がします。
- ・ 地元のスーパー等で残っているところが何故残っているのかというと、「介護サービスの車が買物のため停まってくれるから」ということもあります。高齢者を中心に、特定の店舗でないと買えない方々がいて成立している状況にあるのではないのでしょうか。お客様の中心となる、いわゆる畜産、農業をされる方々が来ていただくことで飲食店が根強く残っています。時間、距離がどうしても地域内で完結しなければならないという方々が多いが、時間をかけてでも探さないといけなような大型店に流れるというのが、ここ 20 年～30 年の流れとなっています。
- ・ 市商工会全体でも年に 5 件以上が廃業しており、その原因は後継者不足であります。子供が独立して、立派に生業しているので、自分の代で廃業する方が多いようです。

- ・ 輝北支部の状況については、現在人口が約 3,300 人。うち 65 歳以上の高齢者が約 1,300 人で、高齢化率が 40%以上となっており、かなりの過疎地域です。鹿屋市との合併後に人口が約 870 人減少し少子高齢化が進んでいます。
- ・ 商工業者数につきましては現在 103 件で、その中で商工会の会員が 63 件となっており、商工会の組織率は 62%です。
- ・ かのや市商工会 3 地区の中で、もっとも商工業者と会員が少ない地域ですが、会員組織率は 3 地区の中でも一番高く、ここ 5 年を見ると、ほぼ横ばいです。
- ・ 平成 26 年 12 月に開通した東九州自動車道の影響で、鹿屋市から霧島市を結ぶ国道 504 号線の交通量の減少に歯止めがかからず、道路周辺の小売業の売上減少に拍車がかかり、後継者不足も重なって廃業の増加に繋がっています。
- ・ このような環境の中で、かのや市商工会輝北支所の青年部が現在 7 名おりますが、地域を盛り上げるために日々活動しています。具体的には、毎年 4 月に開催される畜産祭りの運営。また、毎年 11 月に開催される輝北秋祭りの運営などを行い、地域活性化のために日々汗を流しています。
- ・ また、以前から青年部で国道 504 号線沿いにイルミネーションを設置して地域活性化を行うための取組を行っていましたが、平成 25 年度から 27 年度までの 3 年間、鹿屋市の助成金を活用し、輝北から元気な鹿屋 PR 事業と題し、青年部が中心となって実行委員会を設置しイルミネーション事業による地域活性化を図り、輝北町の国道 504 号線沿いの賑わいを取り戻す努力をしてまいりました。
- ・ 結果的には、市町村合併前の賑わいを完全に取り戻すまでにはいたっていませんが、この 3 年間の助成金を使った取組については、少しでも盛り上げたいという商工会青年部の熱い気持ちが、輝北町の地域住民の十分伝わっていると今感じている。
- ・ 今後も、新たな地域活性化のための取組を考えて、商工会の青年部を中心とした、地域活性に取り組む予定です。

経営指導員

- ・ 私自身、吾平支所に着任して 3 ヶ月ということで、この 3 ヶ月間で感じとった近況を報告したいと思います。
- ・ 吾平地区は他の地区からの移住も少なく人口減少は同じく避けられないのではないかと思います。後継者問題だったり、大型店の参入だったり、内部的にも大きくて、雇用はとても難しい状況となっています。
- ・ 吾平の商店街を歩くと、幸いにもシャッター街が少なく、ただ空き地が非常に多いのが問題となっています。その空き地をいかに今後利用していくか検討の余地があるのではないかなと思っています。
- ・ 吾平地区は、人口だったり企業数の割合的には、日本政策金融機構の「マル経融資」の利用者数が多いのではないかなと思っています。
- ・ その利用目的としては、主に資金繰りだったり、資金繰り改善に利用する通常案件ですが、新規事業だったり、事業の多角化という面で相談が非常に少ない地区ではないかなと思っています。
- ・ 民間の金融機関である、鹿児島相互信用金庫と興業信用組合の皆さんにも営業

の役席の方にも融資案件のお話しを一応お聞きするが、新規事業となる上では、年間に1件あるかないか、特に職業においてはほとんど皆無状態であるという報告を私も受けております。

- ・ 吾平地区の明るい材料としては、今吾平地区のトレンドとして、4事業者で行っているエゴマ商品の開発に力を入れています。各事業所オリジナル商品を開発して商談会や、国産品展に出展して活動をしています。最近では、MBCテレビの「ズバツとかごしま」や南日本新聞社などのメディアに取り上げられて、鹿屋市外からも非常に多くの問い合わせをいただいています。その後に、10月の3日から4日に博多の駅前で、物産展をさせてもらいエゴマだけではなくて、商品を知っていただく上でよいタイミングだったのではないかと考えています。今後吾平の特にエゴマ商品の魅力を周知するためにも各事業者足並みを揃えて、活動できればいいと考えております。

市長

ありがとうございました。

挨拶で、足りないところがありましたので、2つ追加したいと思います。

- ・ 1つは、土曜日にC&Kのコンサートがございました。特にKEENさんが串良出身ということで、串良の皆さんを中心に商工会の皆さんも準備段階から協力していただきました。私も参加しましたが1万5千人ということで盛大に開催されました。イベントがもたらす経済効果は今後試算することになっていますが、大変な盛り上がりで、鹿屋市で1万人を越えるイベントは初めてだったということで、大変お世話になりました。有難うございました。
- ・ もう1つは、3年後に鹿児島で国体が開催されます。今日は3町から出席されていますが、串良の平和アリーナで成年女子のバレーが開催され、昨年の台風の影響もあり輝北でボート競技が開催されます。そして、吾平は自転車のロードレースのコースの一部になっており、3町でそれぞれ国体に関係がありますので、国体も地元の商工会の皆さんがいろんな意味で活用していただければ幸いです。
- ・ 特に私が期待したいのは輝北で滅多にない、本県で50年に1度開催される国体を契機として地域活性化に取り組んでいただきたいということです。この前、愛媛国体視察に地元の方々に行っていただきました。おもてなしであるとかお弁当、集会施設等の利用、あるいは農家民泊を利用した宿泊の受け入れ、やることはたくさんありますので、ぜひ商工会の若い皆さんに、ご協力いただいて成功に導きたいと思うので、宜しくお願いします。

それでは「交流人口の増加促進」「空き店舗等を活用した商店街機能の再生」「異業種交流による共同事業の構築」の3つのテーマを挙げていただいていますので、フリートークで進めていきたいと思います。

青年部

- ・ このテーマは、参加をされる方に事前にアンケートをとっており、“人口が減っているので、いけんかならんどかい”ということでした。お客さんが減って、そ

れをもう少し具体的におろしていったら、その対策としてはどういうことができるか再度検討した結果です。

市長

- ・ 皆さんの個店の経営がうんぬんというよりも、皆で盛り上げて、少しでも自分たちの仕事にいい影響があればという意味では、何をすればいいのでしょうか。プレミアム商品券を今年はふるさと納税でたくさん寄付をいただきましたから、6億円の一割で6億6千万ということで実施します。私の気持ちとしては、これを使って皆さんのお店にお客さんが来た時に、商店街でも商工会でも、500円か何かプラスしてサービスするとか考えられませんか。

商工振興課

- ・ 今回も同様のものにするか、いわゆる抽選で特典の方だけにするのか、今検討しているところです。

市長

- ・ 私としては、プレミアム商品券を上手く使って、自分のところにお客さんが来るように工夫して欲しい。プレミアム商品券を持ってきたら粗品でも何でもいいのであげるとか、あるいはそれぞれの商店街で買って、そのプレミアム商品券が抽選券になって、それぞれの商店街で抽選が行われるとか、プレミアム商品券をもう少し活用してもらいたい。プレミアム商品券を使って買いに来られる方に、プレミアム商品券を活かして特別な仕掛けをするというのがあまりない。

商工振興課

- ・ 例えば、旧町地域でしか使えないという固定枠がなければ、結局皆さんは安いところに買物に行く。また、いつも旧町地域の店を利用しているお客さんで、利用期間内に欲しい物があれば買うお客さんはいるが、利用期間内に欲しい物がなかったら、旧町外に流失して食料品だったり、衣料品だったり、日用品を購入される。

市長

- ・ 今度は新たに旧町地域でしか買えないとなった時に、どれだけ売れるのかという話しにもなるが、1割でなく2割のプレミアムを付けたらまだ売れるのですが、1割の場合1万円買って千円、そのぐらいのプレミアム率。また、これは地元の商工会議所や商工会の加入店でしか買えませんでした時に、次はどのくらい売れるのかということもあると思います。反対に言うと、このプレミアム商品券を扱うためには、商工会議所や商工会に入ってくださいと。

商工振興課

- ・ 商工会議所や商工会に入ってくださいとお誘いをする形をとっています。

市長

- ・ プレミアム商品券を取り扱うのであれば商工会に入ってくださいと、そういう意味で囲い込みはするようにはしています。我々もただ予算をつけて、ばらまきではなくて、プレミアム商品券を何らかの形で地元の商工会議所や商工会の皆さんの少しでもご支援ができればと、そういう思いでやっています。ただ量販店で使えないとした場合、どれだけ商品券が売れるか難しいでしょうし、そこまで分けて実施している市町村があるかどうかは知りませんが、基本的には、そういう手続きをしているところはどちらかというと消費者目線でやっていかないといけないですし、それぞれ制約もあるでしょうから。いい物があれば買うかもしれないが、日用品に流れているのは事実だと思います。

市長

- ・ 市民の皆さんが、どう考えるのかということになってくる。

青年部

- ・ やってみればいいのでは。

市長

- ・ ある商店街は 500 円プラスしてやっていますよね。

青年部

- ・ プラス 500 円は、どこでも使えなかったのではないですか。量販店は使えません。プレミアム率を上げてもらえれば、町内の消費は上がるのではないのでしょうか。2 年前に地域だけで使えますというプラス 500 円ではなく、抽選会をして限定で 4 千円差上げました。それを受け取られた方の中から「こんな短期間に地元商店では 4 千円を使い切らない」というクレームがありました。やはりそこは我々の商品の揃え方や工夫が足りない、あるいは周知が足りないといった反省がありました。結局何に使ったのかというと、ガソリンスタンドに行ってしまうです。

青年部

- ・ プレミアム商品券も良いが、輝北はネットワーク環境が悪く、市成では ADSL がなくアナログ回線です。今ネットワーク社会になっていて、市成地区では家畜業者もいるが、家畜のお産とかネットワークで管理しており、光回線の整備も大事だと思います。

市長

- ・ 今年から 3 年間で未整備の輝北など 8 地区について光回線を整備します。輝北は再来年整備する予定です。鹿屋市は光回線の整備が遅れており、早く整備する必要があります。また、光回線整備地区でも 2 割ぐらい未接続であります。市としては光回線を使ってどの行政情報に役立って、その地域の皆さんが行政サー

ビスをどれだけ濃く使っていただけるか、など、その先を上手く考えないといけない。今専門的な人も入れて検討しています。

青年部

- ・ 光回線について、ADSL が使えないと断念している方が5～6名いらっしゃる。また、ネット回線を利用し高齢者等の安否確認をしたいと言われていました。

市長

- ・ 皆さんがおっしゃるように光回線を活用して、ネット社会に対応したいと思っています。見守りや子育てなどいろんな仕組みについて可能性が広がります。

市長

- ・ 大きなお祭り等を毎年同じ内容のものを繰り返しているように感じています。

青年部

- ・ 去年、C & Kライブの署名活動をさせていただいたが、何か大きな狙いがあったわけではありません。田舎の方は、都会だけよくなってとか、コンプレックスではないが、経済がダメだからダメだとか、マイナス思考なところがあるように感じていて、何か人の気を変えたいと感じ、田舎でも自分たちが頑張っ、やればできるということで、鹿屋にライブが来ることでそれがまた、そこに来た人が集まって商売などをしたり、チャンスに変えるものになればいいのではないかと思い、やらせていただきました。

市長

- ・ 私も行きましたが大成功だったと思います。今日のテレビで放送されていましたが、いろいろなところでツイッターや Facebook、新聞、テレビなどで C & K を含めた鹿屋のシティセールスができており、効果は大きいと思います。
- ・ 今年は1万5千人でしたが、今後、C & Kに限らず継続的に数年に1回くらい、次は3万人という形でやっていく価値はあると思いますし、ライブ当日を挟んで2～3日は市内の宿泊、観光バス、飲食店などは盛況で、特に宿泊は大盛況で、経済効果は大きかったのではないのでしょうか。また、法青会やJCなど、いろんな各種団体の若い方々が実行委員会をつくり、考えながら時には喧嘩をしながら成し遂げたという達成感が大きな収穫だったのではないかと考えています。

青年部

- ・ 吾平を含め市内のイベントが単発的であると感じています。個人的に開催するイベントや、マルクト、はなマルシェなどのようなイベントもあると思いますが、その日だけになってしまいます。ここは田舎なので泊まってもらうイベントができることです。1泊してここに住みたいなど、狙いは人を呼ぶだけではなく移住してもらうことが最終的な目的だと考えています。そうすることによって、移住して人口が増えて働く場所があって、1家族が吾平に住むことによって全然変わ

ってきます。イベントを開催することについて否定はしません。イベントにも出ますし、することは絶対いいことだと思っていますが、宿泊してもらって、地域のいいところを感じてもらい、移住につなげる仕組みをもう少し考えていきたいと考えています。

市長

- ・ 移住施策にも一生懸命取り組んでいるが、私がいつも思うことがあります。市役所の職員のことですが、吾平地区の職員が鹿屋地区に住んで、吾平地区はいいところと言っておきながらどうかと。自分の故郷があるなら故郷に住んだらいいのと思う時もあります。吾平地区の人が鹿屋地区に住んで、東京など遠方の人達を吾平地区に移住してもらったと言われても、違うのではないかなと思う時もあります。年間約 30～40 人が市内に移住定住されています。ただ、子育て世代の人に期待していますが、なかなかそこまで至っていません。政府が働き方改革、生き方改革を進めており、自分の人生をどう生きるかということで、都市で 30 万円貰うより、田舎では 15 万円だけど田舎の方が心豊かな生活を送れるとか。
- ・ 二十歳の成人式で、久しぶりに会った同級生という設定で話しをしますと、東京で就職をしている人は、スーツをピシッと着こなしていたが、地元で就職した方はぺらぺらで貧弱に見えました。東京の人は財布に 1 万円札がいっぱい入っていました。それを見た地元で就職していた人が東京に就職をしてしまう。若い時の憧れで、東京に行ってしまうのは当然なのでしょうが、田舎に住んでいる人達は、やはり自信と誇りや豊かさを自分で発信してもらいたいです。行政が移住定住施策を進めていますが、住民の方々に田舎はいいよと言っていたきたいです。子ども達に鹿屋地区に住みなさい鹿児島市内に住みなさいと言ってもらっても、話しがあべこべになってしまいます。その原因としては、学校問題や病院の問題は大きいと思います。

青年部

- ・ 福祉関係のテレビ番組で見たが、子育てが終わって団塊世代の人達が U ターンで帰ってくる地域で問題になっていることが医療費の問題だと。子育て世代で移住定住している人達のメリットとは何かというと、やはり保育園や学校関係のサービスが充実していることで、同級生の話でも、田舎は空気が美味しいし子育て関係のサービスが充実していると。確かに都会に比べたら、物価も安いし、医療費などメリットがでるような福祉サービスを期待していると思います。

市長

- ・ 中学生まで医療費を無償化しています。給食費の免除は、要保護者・準要保護者に対して実施しています。
- ・ 現在、教育の無償化などが事例としてあがっていますが、鹿屋市が高校生まで無償化します、給食費を無料にしますとなると、周りの市町も実施しないといけなくなると思います。肝付町で保育園の無償化はしてないのではないかな。

青年部

- ・ 肝付町の保育園は無償化になっています。

市長

- ・ 議会でも鹿屋市から肝付町に人が流れているのではないかと質問がありましたが、そうではなく、反対に肝付町から鹿屋市に來ています。その理由は、鹿屋市は3～5歳を無償化にしています。また、低所得者や1人親世帯などの24.25%は既に無償化しています。つまり全体の4分の1は無償化になっています。私が申し上げたいのは、各自治体が無償化にするというのは1つの政策だが、親の勤務が鹿屋市であれば、保育園の近くに学童施設があり預けられて残業もでき、更に病院も近いし、買い物も通勤中にできるなどメリットが多いことから、まさにパッケージで考えないといけないと考えています。
- ・ 以前、子育て中のお母さんたちとの本気で語ろう会で、「保育料を無料にすれば子どもをもう1人産んでくれますか。」とお聞きしたところ、3～5歳が無料になれば、もう1人産みたいという方は、ほとんどいませんでした。2～3年間、無料にしたからといって物事が解決するわけじゃない。子供が高校・大学に行き、就職して結婚してと、子育てのパッケージで考えていかなくてはいけないと思っていますし、大変難しい話しであると感じています。子どもを産み・育てやすい環境としては無償化のほかに、学童だったり、幼稚園の時間外対応などをトータルで考えていく必要があると考えています。特に輝北の場合は、子どもたちの検診で鹿屋まで連れて来ないといけないというのも聞いていますけど、そのあたりの課題はトータルで解決していただければならないが、なかなか厳しいです。

青年部

- ・ テーマとは別の質問なんですが、平和公園の野球場が新しくなると聞いていますが、状況を教えてください。

市長

- ・ 平和公園は多目的球場で、ソフトボールなどいろいろやっていました。今回はバックスクリーンも備えた野球専用の球場を整備中で来年の2月に完成予定であり、その後グラウンドの芝の養生とかもあるので使用できるのは夏過ぎではないでしょうか。

(青年部)

- ・ 将来的に、誰かを呼びたいとかキャンプ地にしたいとか考えていますか。

市長

- ・ 球場がプロ仕様でないので、ノンプロ、大学、高校がターゲットだと思っています。スポーツ合宿の誘致については宿泊施設の問題があります。

青年部

- ・ 室内練習場は綺麗ですか。

市長

- ・ とても綺麗で、私たちが思っていた以上に利用率が高いです。

青年部

- ・ 私はサッカーをしており、今までは吾平の大隅アリーナまで行っていたが、串良にできたので近くで練習できるようになりとてもありがたいと思っています。明るいし、電気もすぐ点くし良い施設であると思っています。
- ・ イベントに対する補助制度はありますか。新たにイベントをはじようとする時、そしてそのイベントを持続させようとした時に予算的なところで苦労している。まだ計画の段階ですが、イルミネーション1つ付けるにしても樹木につけて撤去となれば、30万円程度経費がかかる。だから、何かを持続しようとしてイベントを計画し予算を立てる際、なかなか自分たちで集めるとなると難しいのかなと感じており、イベントに対する市の支援はできないか。

市長

- ・ 「市の支援を」と皆さん言われますが、特定の団体にだけという形ではできなし継続してできない。だから、最初やってみて後は自分たちでやっていただくのが基本だと思っています。継続して支援をすることで、皆さんの自立心を阻害することにもなるのではないかと思います。例えば、立ち上げ時にイルミネーションを買う場合に半分を補助しましょう、取付は皆さんの通り会や商店街の役割になるので、ボランティアで取付しましょうとか、棲み分けをしないとなかなか難しいと思います。
- ・ また、職員にも言っていますが、イベント等は毎年同じ内容では面白くないのではと問います。毎年少しずつでも模様替えするのが良いのではないか。

青年部

- ・ 輝北の秋祭りは、昨年、青年部がグラウンドの芝生を借りてミニ四駆のコースを自分たちで作って大会を開催しました。その後、何をしたら面白くなるかと考え福岡まで先進地研修に行きミニ四駆のコースを見に行った。今年は、去年ミニ四駆をしたから、また別なことをしようとか、何をやっていけば話題になるのかと考えました。定期的に3ヶ月に1回程度イベント的なものでできたらいいが、なかなか良いアイデアが出ないところです。

市長

- ・ テーマを決めることが大事だと思います。また、この10～11月は土日の度に市内のどこかでイベントが開催されており、イベントが集中し重複しています。雨天等で延期されたイベントについては結果として多くの集客を得ている状況だと聞いています。

青年部

- ・ 今年台風の影響で、他の地区と重なっていたイベントが延期になり多くの方に訪れていただきました。毎年重複しているので初めてイベントに来たという方から「綺麗ですね」、「来年は私たちも協賛しようかな」という声を聞いたことは嬉しかった。市内のイベントが重複しないよう調整できたら良いと思います。

市長

- ・ イベント開催日についてお互いの地区が譲らないと聞いています。その結果、10～11月には同じ内容のイベントが重複しているのが現状で、先程メニューの話をしましたが、例えば輝北でやる場合、輝北の人を集めるイベントなのか、どこまでのお客さんと呼ぶのか、それによっては出し物も変わってくるだろうし、地域の恵みを地域内の人にも地域外の人にも還元するようなイベントにしてはどうかと思います。地域の売りやここが欠かせないというのがないと、ただ人を集めるためにやるだけでは、地域のアイデンティティがないと寂しいと思います。
- ・ 市の農業祭は昔は相撲が開催された。結構な相撲取りが来て年配の方は行っていました。最近の農業祭は、露店商が来て、たまねぎの苗が販売されているわけではなく、物販や飲食が出ていて面白くないと感じた。鹿屋はカライモのまちですから澱粉汁の振舞いをするとか。そして、日本一の牛をつくった薬師さんのお肉を格安で売ろうとか、農業のまちだから農業をメインにやって欲しいと思います。これは、鹿屋市内だけではなく鹿児島市からも人を呼び込んで観光の目玉としてやってくれと言ったので、大きくなっているのではないかと考えています。何か1つ、ぶれない何かがあれば良いのではないのでしょうか。理屈ばかり言うと人は来ない。

青年部

- ・ 農業祭で開催された相撲は、いつごろ開催されたのですか。

市長

- ・ 昔の話です。

青年部

- ・ 今、相撲ブームです。相撲女子とか人気がある。高校の相撲大会とかで全国大会もあるし、野里でも相撲大会をやっており残していかないといけないと思います。

市長

- ・ 地域の文化を残して大事にしていくべきだと思います。

青年部

- ・ 平房は蛍が増えています。

市長

- ・ 昔、吾平の玉泉寺で河川愛護会の人たちが鮎を採って振舞いがありました。始良川の河川敷で新たに鮎祭りとか開催しても良いのではないかと思います。吾平山上陵の正月三が日の時にお参りをするだけでなく、もっと上手く活用したら良いのではないかと思います。

青年部

- ・ 神様に捧げるイベントは、とても良いと思います。能とかですね。

市長

- ・ それぞれの地域で伝統があるので、うまく活かしてみても良いのではないかと思います。新しいところに目がいくのもわかるが、市内各地域に歴史がいろいろあるので、もう一度、自分たちのまちを見つめ直して欲しいと思います。

市長

- ・ テーマにもありますが、異業種の皆さんが一緒になって何かやることについてですが、今、市内数ヶ所でドライブサロンを実施しており、串良も社会福祉法人のバスを借りて毎週お店に連れて行く介護の支援と、バスの中でワイワイ会話を楽しむ支援を行っています。ドライブサロンの利用者が商店街に降りてそこを散策して、ここの店はこれが美味しいですよという感じで回ってみるのもいいと思います。今、鹿屋がやっているドライブサロンの行く場所は、市内の大型店舗など5～6箇所に連れて行っています。吾平も農協のバスを出しています。ほかに鹿屋市と肝付町はA T Mの機能の付いたバスも走っています。

(市長総括)

今日は皆様の活動の状況、そして問題などの聞き役に徹してしまい具体的な回答が出来ずに申し訳なく思っています。皆様の実態、ご要望を聞かせていただいたので、決してこれを無駄な会議にしないよう、1つでも2つでも皆様の思いや志をしっかりと形にできるように努力をしたいと考えています。皆様はボランティアということで大変な仕事だと思いますが、私はボランティアとは人間にとってこれほど美しい仕事は無いと思っています。そういう意味では今後ともそれぞれの分野で活躍していただければと思っています。今日は貴重な時間をいただき、本当にありがとうございました。